

大人になろう、季刊チョイス。
ゴルフの時間ってあるんだね。

NO. **213**
2015 新春号
季刊

choice

Golf Digest

すかのクラブセッティング100実例!

マッスルバックの魅力 ツイードとニット、伝統を着る
ゴルフ脳を高めるドリル集 教えたくない隠れ家のようなゴルフ場

本誌恒例
日本の
ベスト100
コース発表!



2015



ヘッド後部には3つの調整用ウエイトを装備。入れ替えることでつかい具合をコントロールできる

バルドがフェース材に独自に採用している特殊熱処理、精密鍛造カップフェースが“フェースに乗る打感”を生み出す



911D

重心距離 36mmが
スムーズなヘッドターンを
促す

911S

重心距離 42mmで
オートマチックに
振りやすい

911D

911S

プロトタイプ 911D、911S

素材製法/チタン精密鍛造 (ボディ) +
精密鍛造 (カップフェース) ●ヘッド体
積 0cm (D)、460cm (S) ●ヘッド重量/
装着ウェイト/Sはヒールから6g・4g・



BALDO report 4 DRIVER

BALDO TT PROTOTYPE 911D, 911S



2つのヘッドの “バルド打感”が生み出す イメージをなぞる 快感弾道

ヘッドの美しさ、構えやすさにこだわるゴルファーに支持される、バルドのラインナップ。究極の“つかまり打感”を生かしつつ、ヘッドの操作性を作り分けた NEW ドライバーが 2015 年モデルとして登場する。その違いと選び方を、小池丈晴プロに調べてもらった。

振ることの安心感
から生まれる
極上飛距離

ヘッド素材、重心設計など、ドライバーの飛ばしの基本設計は飽和状態を迎えているようにも見える。では、何をプラスすれば、さらなる飛ばしの可能性を引き出せるのか。

バルドは“振ることの安心感”に着目。構えやすい、不安の出ない“顔”を持つヘッドを作ること、使う人のポテンシャルを引き出そうというのだ。

その考え方を突き詰めて“弾道イメージ”に寄り添える操作性を持たせたのが“TTプロトタイプ”シリーズだ。その新モデル『911』は、2つのヘッドを用意している。ヘッド体積が440cm³の『D』と、460cm³の『S』だ。それぞれ操作性が異なり、こだわりゴルファーのニーズを満たせるという。2つのヘッドを見比べた小池丈晴プロは、こう語る。「他社のモデルと異なり、機能が違ってもヘッドのフォルムはそっくりという点がユニークですね。」



でも、ワッグルしてみると明らかに挙動が違う。構えた感じ、動かしただけで打ちたい弾道のイメージとシンクロしていきます」洋梨に近い、バルド独自のスクエア感が高い“顔”。ヘッドサイズの違いも、並べてみないとわからない程度だ。

“吸いつく打感”が
滑らない
つかまりを生む

試打クラブは、ロフト9度、45・75°合わせの2本を用意。まず『911D』から打ち始めた小池プロは、その打感に感動。

「この感触、前作の『8Cクラブ』とそっくりですね。非常にソフトなのに、強い弾道が出ます」(小池)

フェード、ドロー、高低と打ち分けた後、

「なるほど、ヘッドターンが非常にスムーズです。フェースに吸いつくように“乗る感覚”が出るので、ヘッド軌道どおりに弾道がコントロールできます」(小池)

続いて『911S』を試打。

「こちらはヘッドがターンしづらい。それでいて、ヘッド軌道の安定感が高いので、シンブルに振れますね。打点のズレにも強く、曲がり幅を抑えた持ち球を打ちたいイメージの人に合います」(小池) 操作性の違いのポイント、重心距離。『911D』は36mmに対し、『911S』は42mmと、大きく異なる。

る。

「どちらがやさしいのではなく、自イメージに合うイメージを邪魔しない心して、動かせる、むほどに飛ばせる、るでしょう」(小池) 操作性が高いモデル、曲がりやすくて難、先行しがちだが、「フェースに乗るに幅を抑えてくれます逆球は出ません。スなかつたり、かかっているのいいですね」この独自の“バルド”を試してみたい。

小池丈晴プロ

米ミニツアー1勝、ド
ニッ、競技者の実績